

様式第 1

該当する事項以外は二重線で消す。

ばい煙発生施設設置(使用、変更)届出書

年 月 日

高 崎 市 長

届出者が法人の場合は、本店の名称、所在地及び代表者の氏名を記入する。

届出者

氏名又は名称及び住所並びに法人にあつてはその代表者の氏名

前橋市大手町 1-0-1
群馬工業株式会社
代表取締役 高崎太郎
電話番号 027-224-0000

大気汚染防止法第 6 条第 1 項(第 7 条第 1 項、第 8 条第 1 項)の規定により、ばい煙発生施設について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	群馬工業株式会社 高崎工場	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	高崎市高松町 1-0	※受理年月日	年 月 日
ばい煙発生施設の種類	1. ボイラー	※施設番号	
ばい煙発生施設の構造	別紙 1 のとおり。	※審査結果	
ばい煙発生施設の使用の方法	別紙 2 のとおり。	※備考	
ばい煙の処理の方法	別紙 3 のとおり。		

- 備考 1 ばい煙発生施設の種類欄には、大気汚染防止法施行令別表第 1 に掲げる項番号及び名称を記載すること。
- 2 ※印の欄には、記載しないこと。
- 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格 A4 とすること。

ばい煙発生施設の構造

(変更届の場合)

左欄に変更前、右欄に変更後のものを記入。別紙 2、3 も同様

事業場内で施設を識別するための通し番号を記載

届出の種類に応じて記入

設置届：着手予定年月日、使用開始予定年月日

使用届：設置年月日

変更届：設置年月日、着手予定年月日、
使用開始予定年月日

別紙 3 も同様

燃焼能力の最大値を記入。

※ 重油換算方法により、以下の式を用い、算出する。

・ 固体燃料 ÷ 1.6kg

・ 液体燃料 ÷ 1L

・ ガス燃料 ÷ 1.6m³(昭和 46 年 8 月 25 日付け
環境庁大気保全局長通知：
ガス機関を除く)

工事又は事業場における施設番号		No. 1	
名 称 及 び 型 式		A B C - 1 2 3 4	
設 置 年 月 日		年 月	
着 手 予 定 年 月 日		平成 17 年 2 月 22 日	
使 用 開 始 予 定 年 月 日		平成 17 年 3 月 22 日	
規 模	伝 熱 面 積 (m ²)	2 2 . 7 m ²	
	燃料の燃焼能力 (重油換算 l / h)	1 7 6 . 9 l / h	
	原 料 の 処 理 能 力 (t / h)		
	火格子面積又は羽口面断面積 (m ²)		
	変圧器の定格容量 (K V A)		
	触媒に付着する炭素の燃焼能力 (kg / h)		
	焼 却 能 力 (kg / h)		
	乾 燥 施 設 の 容 量 (m ³)		
	電 流 容 量 (K A)		
	模	ポ ン プ の 能 力 (K W)	
合成・漂白・濃縮能力 (k g / h)			

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第 1 の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。
- 3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本工業規格 A4 の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

ばい煙発生施設の使用の方法

工事又は事業場における施設番号		No. 1		別紙1の番号とそろえること		
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	7時～20時 13時間/回 1回/日 20日/月		断続的に使用する場合は、 1回の時間や1日の回数等を記入と		
	季節変動	なし				
原材料 (ばい煙の発生に影響のあるものに限る。)	種類					
	使用割合					
	原材料中の成分割合(%)	いおう分 が、油分	鉛分 弗素分			
	1日の使用量					
燃料 又は 電力	種類	A重油		高位発熱量(総発熱量) を記入。単位を明確に		
	燃料中の成分割合(%)	灰分 0.01	いおう分 0.46	窒素分 0.026		
	発熱量	9900 kcal/l				
	通常の使用量	150.0 l/h				
	混焼割合	専焼				
排出ガス量 (Nm ³ /h)	湿り	最大 2177	通常 1523	排風機等により強制排気している場合は それを考慮した値を記入。「最大」は施設を 定格で運転させた場合の数値を、「通常」は 平均的な運転状態の場合の数値を記入(以 下「最大」、「通常」欄の記入は同様。)		
	乾き	最大 1952	通常 1366			
排出ガス温度(℃)		300		「排出ガス温度」「酸素濃度」は、 原則として排出口での値を記入		
排出ガス中の酸素濃度(%)		3.0				
ばい煙 の濃度	ばいじん(g/Nm ³)	最大 0.20	通常 0.10	最大	通常	
	いおう酸化物(容量比 ppm)	最大 253	通常 253	最大	通常	
	カドミウム及びその化合物(mg/Nm ³)	最大	通常	最大	通常	
	塩素(mg/Nm ³)	最大	通常	最大	通常	
	塩化水素(mg/Nm ³)	最大	通常	最大	通常	
	弗素、弗化水素及び弗化珪素(mg/Nm ³)	最大	通常	最大	通常	
	鉛及びその化合物(mg/Nm ³)	最大	通常	最大	通常	
	窒素酸化物(容量比 ppm)	最大 120	通常 90	最大	通常	
ばい煙量	いおう酸化物(Nm ³ /h)	最大 0.49	通常 0.35	「ばい煙の濃度」は、排出基準が適 用される項目について、記入。原則 として、酸素濃度換算後の測定値 を記入する。測定結果が得られて いない場合は、メーカー保証 値、設定値等を記入		
参考事項						

備考 1 原材料中の成分割合(%)の欄及び燃料中の成分割合(%)の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。

2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。

3 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。

4 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の排出抑制のために採っている方法等を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用(専ら非常用において用いられるものをいう。)の別を明らかにすること。

ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号			No. 1 煙突		処理施設の通し番号を記入	
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号			No. 1		処理施設が接続されているばい煙発生施設の施設番号(別紙 1 参照)	
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式			煙突			
設置年月日			年 月 日			
着手予定年月日			平成 17 年 2 月 22 日			
使用開始予定年月日			平成 17 年 3 月 22 日		乾式排煙脱硝装置、排ガス再循環(EGR0%)のように記入する。処理施設が設置されていない場合は、煙突がばい煙処理施設になる。	
処理能力	排出ガス量 (Nm ³ /h)	最大				
		通常				
	排出ガス温度 (°C)	処理前				
		処理後				
	ばいじん (g/Nm ³)	処理前				
		処理後				
	いおう酸化物 (容量比 p p m)	処理前				
		処理後				
	カドミウム及びその化合物(mg/Nm ³)	処理前				
		処理後				
	塩素 (mg/Nm ³)	処理前				
		処理後				
	塩化水素 (mg/Nm ³)	処理前				
		処理後				
	濃度	処理前				
		処理後				
	窒素酸化物 (容量比 p p m)	処理前				
		処理後				
	ばい煙量 (Nm ³ /h)	最大	処理前			
		通常	処理前			
捕集効率(%)	ばいじん					
	いおう酸化物					
	カドミウム及びその化合物					
	塩素					
	塩化水素					
	弗素、弗化水素及び弗化珪素					
	鉛及びその化合物					
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	7時～ 20 時 13 時間/回 1 回/日 20 日/月	時間/回	回/日	日/月	
	季節変動	なし				
排出口の実高さ H _o (m)		10.8 m × 0.6φ		「煙突の地上からの高さ」と「内径(形状が円ではないときは、内側の寸法)」を記入		
補正された排出口の高さ H _e (m)		12.7 m				
排出速度 (m/s)		4.49 m/s				

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 3 補正された排出口の高さ H_e は、大気汚染防止法施行規則第 3 条第 2 項の算式により算定すること。
- 4 ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添付すること。